

令和7年度第2回 大和市立病院運営審議会 会議録

日時 令和7年11月18日(火)

午後7時から

場所 大和市立病院3階講堂

1 委嘱状の交付

2 副市長あいさつ

3 病院長あいさつ

4 病院職員紹介

5 委員自己紹介

6 会長の選出

7 職務代理の選出

8 報告

(1) 大和市立病院経営計画の改定スケジュール等について

(2) 地域医療支援病院の業務遂行状況について

令和7年度 第2回 大和市立病院運営審議会 会議録(要点筆記)

開催日時 令和7年11月18日(火) 午後7時～午後7時51分

開催場所 大和市立病院3階 講堂

出席者 楠原会長(医師会) 河端職務代理(市議会) 大橋委員(医師会) 木山委員(医師会)
古木委員(市議会) 梅下委員(利用者の代表) 川越委員(利用者の代表)
南淵委員(学識経験者) 内山委員(市長の認めた者)

欠席者 なし

事務局 病院長 事務局長 診療部長兼患者サポートセンター長 病院総務課長 総務調整係長
施設用度係長 医事課長 医事・入院係長 外来係長 経営戦略室長 経営戦略係長
診療情報管理センター長 診療情報管理係長 地域連携科長 地域連携科長補佐
地域連携係長ほか事務局2名

【報告】

- ①大和市立病院経営計画の改定スケジュール等について
- ②地域医療支援病院の業務遂行状況について

Ⅰ 大和市立病院経営計画の改定スケジュール等について

(事務局)

「資料Ⅰ-Ⅰ」及び「資料Ⅰ-Ⅱ」に基づき説明。

(委員)

今回はあくまでも、改定のスケジュールを示すものと捉えてよいか。

(事務局)

よい。経営計画の改定案につき、令和8年1月下旬～2月上旬頃にご審議いただく旨を、あらかじめ委員全員に報告させていただくことが本件の趣旨である。

(委員)

指標についても、そのときに審議するということか。

(事務局)

改定後の指標についてはそのとおりである。

(委員)

本日が次期計画についての審議の場ではなく、今後のスケジュールについてご報告頂いたということとは理解したが、参考として一つ聞いてもよいか。

(事務局)

よい。

(委員)

現行の経営計画16頁に記載されている地域分娩貢献率について、2022年から1パーセントずつの上昇させる目標となっているが、市立病院では昨年度から無痛分娩を始めているため、1パーセントずつではなく、例えば2パーセントずつの上昇を見込むなど、目標値に反映させていくのかどうか、伺いたい。

(事務局)

分娩数は全国的に著しく減少しており、大和市も多少減少している状況である。また、大和市の分娩施設は4施設あり、いずれの施設も無痛分娩を行っているため、当院だけ貢献率が上がることは想定し難い。無痛分娩に関しては、今後、保険適用となる話もあり、そのことが影響を及ぼすかもしれない。

地域分娩貢献率に係る指標以外にも、当院は急性期病院が5施設ある地域に位置しているにもかかわらず、手術件数を毎年200件ずつ増加させるという指標など、現時点の状況に即していない設定がある。そのため、この52項目の指標に対して、現時点の状況や社会的情勢などを総合的に勘案して、適切に見直していきたいと考えている。

(委員)

全国的に無痛分娩の割合は23パーセントである。無痛分娩は人気があるため、もっと選ばれてもよいが、数値的には23パーセントに留まっている。個人のバジェットに大きく依存していることが窺える。

2 地域医療支援病院の業務遂行状況について

(事務局)

「資料2」に基づき説明。

(委員)

利用の枠として、まだ余裕のある高度医療機器等はあるか。

(事務局)

MRI検査については当院から依頼する案件もあるため、予約等が取りづらい状況である。

それ以外の検査は、枠にまだ余裕がある。

(委員)

大和市以外の医療機関の高度医療機器等に係る利用件数の増加につながるよう、取り組んでいることはあるか。

(事務局)

昨年度から、近隣市である海老名市、座間市、綾瀬市及び横浜市瀬谷区の医療機関を訪問させていただき、当院にて利用できる高度医療機器等を説明するなど、広報活動や資料提供をしている。

(委員)

救急車等による搬送ではない救急患者に対する選定療養費の徴収をどうしているのか。普段通院している地域のクリニックから「救急対応可の医療機関で診てもらうように」と促される場合もある。

(事務局)

選定療養費に関しては、療養担当規則に徴収できる場合とそうでない場合の基準が規定されているため、当該基準に基づいて判断している。

(委員)

選定療養費は患者の負担が大きいのので、徴収する場合は苦情等もあると思料するが、いかがか。

(事務局)

そういった申出をされる方も少なからずいる。そのため、できるだけ丁寧な説明をして納得いただけるよう心掛けている。

(委員)

救急搬送について、大和市からの搬送が多いと思料するが、それ以外の市で多いところはあるか。

(事務局)

全体的にみると、大和市からの搬送がほとんどである。大和市に次いで多いのは近隣市である横浜市瀬谷区、海老名市、綾瀬市及び座間市である。相模原市や町田市からの受入もあるが、当院から少し距離があるため、先ほど述べた自治体の方が多い。

(委員)

今年は特に暑い時期が長く続いていたが、熱中症による救急搬送の状況はどうだったか。

(事務局)

当院としても夏場の暑い時期は熱中症の救急患者が多かった。患者数としては昨年度と同程度である。また、冬場にはインフルエンザ等の感染症もピークを迎えるため、1年という期間でみると、やはり夏場と冬場は救急患者数がいつもより多くなる。これからの冬場のピークに備えて受入体制をより強化していきたい。

(委員)

高度医療機器等について、他市も含めて様々な医療機関に周知することで収益につながるため、継続してアピールしていったほしい。

3 その他

(事務局)

今回の開催は、1月下旬～2月上旬頃を予定している。

以上